

講習会のお知らせ

■ 救急法基礎講習：1日コース

心肺蘇生やAEDを用いた除細動などが学べます

2 / 22(水) 県総合体育センター 9:00~16:30

■ 水上安全法救助員養成講習I

水の事故防止、泳ぎの基本と自己保全、救助の仕方、応急手当などが学べます(救急法基礎講習を事前に修了することが必要)

3 / 7(火)~9(木) 富山市民プール 9:30~17:00

■ 救急法救急員養成講習：2日間コース

急病の手当、けがの手当、搬送などが学べます

2 / 23(木)~24(金) 県総合体育センター 9:00~16:30

■ 幼児安全法支援員養成講習：2日間コース

子どもに起こりやすい事故の予防と手当、子どもの病気への対応などが学べます

3 / 4(土)~5(日) 日赤富山県支部 9:00~17:00

● 資格継続研修

平成28年3月31日までに救急員等認定証を取得され、かつ発行日から2年経過し有効期限内の方が対象です。(平成28年4月1日以降の救急員等認定証取得者への資格継続研修は廃止されました。)受講により、現在お持ちの認定証の有効期限が5年延長されます。

救急法▶3 / 25(土) 日赤富山県支部 13:00~17:00

受講のお申し込みやお問い合わせ先 日本赤十字社富山県支部 事業推進課 TEL 076-451-7878 <http://www.toyama.jrc.or.jp/> (ホームページから申し込みができます)

街頭献血のお知らせ

※お昼時間は受付を休みます。
★日程は都合により変更することがあります。

2月

5日(日) アル・プラザ小杉 10:00~16:00
ファボーレ 10:00~16:30

11日(土) イオンモール高岡 10:00~16:30

12日(日) イオンモールとなみ 10:00~16:00
ファボーレ 10:00~16:30

19日(日) アピタ魚津店 10:00~16:00
イオンモール高岡 10:00~16:30

25日(土) 入善ラーメンまつり会場 10:00~15:00

26日(日) ファボーレ 10:00~16:30

3月

4日(土) ファボーレ 10:00~16:30

5日(日) ショッピング ア・ミュー 10:00~16:00

12日(日) イオンモール高岡 10:00~16:30
アピタ富山東店 9:00~16:30

19日(日) ファボーレ 10:00~16:30

20日(月) イオンモール高岡 10:00~16:30

26日(日) ハッピータウン氷見店 9:30~16:00

お問い合わせ先 富山県赤十字血液センター TEL 076-451-5555 <http://www.toyama.bc.jrc.or.jp>

病院機能評価

富山赤十字病院は、公益財団法人日本医療機能評価機構から、平成28年11月4日付けで病院機能評価(一般病院2機能種別版評価項目3rdG:Ver.1.1)について、認定更新を受けました。

これは、公益財団法人日本医療機能評価機構が行っている医療機関を対象とした第三者評価において、各評価項目に対し当院がその認定基準に達していると判断されたことにより認定更新を受けたものです。

これからも良質な医療の提供に職員一同、より一層の努力を積み重ねてまいります。



認知症を理解し、適切な対応の仕方について一緒に学んでみませんか?

日本赤十字社富山県支部では、皆様のご希望の日時、場所(例えば職場や地域)へ指導員を派遣し、講習を行います。

講習内容(約90分)

1. 認知症の主な症状
2. 認知症の人への対応
3. 予防と早期発見
4. 家族の理解と支援
~地域で支えるために~



講習の申込み・問い合わせはこちら

日本赤十字社富山県支部
TEL 076-451-7878

事業推進課 担当：橋本まで

「はたちの献血」キャンペーン

はたちの献血キャンペーンは、献血者が減少しがちな冬期において安全な血液製剤を安定的に確保するため、新たに成人を迎える「はたち」の若者を中心として広く国民各層に、献血へのご理解とご協力をお願いしています。

今回もフィギュアスケートの羽生結弦選手が、平成27年から3年続けたのキャンペーンキャラクターに就任。はたちを含めた同世代を中心として広く国民各層に献血の継続的なご協力を呼びかけています。

日本赤十字社
Japanese Red Cross Society

赤十字とやま

家族で災害について考えよう

「いえまですごろく」



11月12日(土)、青少年赤十字加盟校である砺波市立砺波南部小学校で、「いえまですごろく」を使用した防災学習を行いました。「いえまですごろく」は、子どもが自宅以外の場所で被災した場合を想定し、地震によって起こりうるさまざまな困難をクリアしながら家族の待つ家(ゴール)を目指すボードゲームです。

プレイヤーは、公園や塾といった4つのスタート地点から、サイコロを振って自分のコマを進めていきます。途中、止まったマスによっては「道路の液状化」や「ビルから落ちてくるガラス」により怪我を負うこともあります。また、「倒れそうな建物の近くで迷子の小さい子どもを発見する」など、ハプニングに遭遇することもあります。このような事態に対してどのように行動すれば良いかを考え、プレイヤー同士で話し

合い、協力して問題を解決し、ゴールを目指します。

今回の防災学習は、同校の学習参観日に行われ、6年生とその保護者が一緒に、地震発生から“自宅で家族と合流するまで”を想定してゲームを進めました。参加者からは、「災害時の行動について考える良いきっかけになった」「避難場所や持ち出しグッズについて今一度家族と話し合いたい」といった感想があり、災害について、改めて考える機会になったようです。



国際交流

マカオ青少年赤十字メンバーが来県しました。



国内外の青少年赤十字(以下、JRC。JRC：Junior Red Cross)メンバーが交流を深め、JRCの実践目標の一つである「国際理解・親善」を促進することを目的として、平成28年度青少年赤十字国際交流事業が開催されました。今年度は、世界21の国と地域から39名の海外メンバーが来日し、富山県を含む全国の道府県支部に分かれて日本のJRCメンバーと交流しました。

富山県には10月29日(木)～11月3日(木・祝)の6日間、マカオのJRCメンバー 2名(エレン・リエンさん17歳、マルコ・フェントウラ・ペレラさん17歳)が滞りました。マカオのメンバーは、期間中、県内のJRC加盟校である高岡市立平米小学校、富山市立八尾中学校、富山県立氷見高等学校、富山県立伏木高等学校を訪問しました。平米小学校では習字やけん玉に挑戦し、八尾中学校ではおわら踊りを体験するなど日本の伝統芸能や文化に触れました。一方、氷見高校では震災食の調理実習を行い、伏木高校では災害について英語で語り合い、また、四季防災館で自然災害や火災を疑似体験することで、防災への意識を高めました。

その他にも、富山赤十字病院、富山県赤十字血液センターでは施設を見学し、富山赤十字看護専門学校では学生の災害救護訓練を学ぶなど、盛り沢山の内容となりました。

マカオのメンバーからは、「富山県は静かで、景色が綺麗で、人々が親切でした。色々なことを体験することができました。マカオでの今後の活動に活かしたいです。」との感想がありました。今回の国際交流に参加された児童・生徒のみならず、今後の活動に繋がることを期待しています。



氷見高等学校 調理実習

災害訓練

富山赤十字病院は、毎年、病院内で災害訓練を実施しています。



東日本大震災から5年が経過した平成28年3月、記憶を風化させないように、と、富山赤十字病院では、「私たちは、わすれない。～未来につなげる復興支援プロジェクト～」として、病院のやすらぎホールや病院近隣の7つの小中学校で、被災地や救護活動の写真掲示などを行いました。そのような中、4月には熊本地震が発生。赤十字のネットワークを生かし、富山赤十字病院からは、救護班や熊本赤十字病院へ支援看護師を派遣するなど被災地の医療救護活動にあたりました。

地震や台風などの自然災害、飛行機事故やバス事故。平成28年も国内外で多くの災害や事故が発生しました。

予期せぬ事態に備え、富山赤十字病院では、10月17日(月)に災害訓練を行いました。呉羽山断層帯を震源とするM7.4の地震が発生し、富山市内でも震度6弱の揺れがあったという想定です。この想定のもと、病院内には災害対策本部を設置するとともに、傷病者の受け入れ、処置、搬送など一連の対応についての訓練を行いました。

幸いにも、富山県は災害の少ない地域です。だからこそ、日ごろからの「備え」が大事です。いつ起こるか分からない災害について、国内のみならず、世界中で起きている災害に目を向け、「自分ごと」として今一度考えてみてはいかがでしょうか。



病院の外に緑エリア(軽症)



病院1階廊下に黄エリア(中等症)



病院1階救急室に赤エリア(重症)



学校祭「いとすぎ祭」

富山赤十字看護専門学校では、9月22日(木)と23日(金)の両日、「今、赤十字の扉を開こう～一人ひとりができること～」をテーマに「いとすぎ祭」を開催しました。

今年度は、来場された方に赤十字の活動に触れ、身近に感じていただく機会にしたいという思いで日本赤十字社が行う9つの事業の展示紹介や三角巾包帯法、一次救命処置、エコノミークラス症候群予防体操などの体験をしていただきました。2日間で304名の方にご来場いただき、さまざまな形で赤十字に触れていただくことができたのではないかと思います。

ご協力いただいたバザーや陶芸サークルの作品販売では97,301円の義援金が集まり、すべて平成28年熊本地震災害義援金に寄付いたしました。いとすぎ祭の開催にご協力いただきありがとうございました。



若年層献血者数が年々減少中!!

今、10代・20代・30代の若年層と言われる年代の献血者数が年々減少しています。平成27年と平成12年の年代別の献血者数を比較すると、50代・60代の献血者数の割合が増加しているのに対して、若年層献血者数の割合が半分近く減少していることがわかります。これは、今まで継続的に献血にご協力いただき支えてくださった方の高齢化や、それに伴う献血可能人口の減少、また献血に関心を持っている方が少なくなってきたことが原因とされています。

全国では1日平均3,000人が輸血を受けており、そのほとんどが50歳以上の方です。この先さらに少子高齢化が進み、現在の献血率で推移した場合、平成39年には約85万人分の血液が不足すると予測されています。

富山県赤十字血液センターでは、こうした状況に歯止めをかけるため、高校生や大学生を対象とした献血セミナーや学校献血の実施、また、複数回献血メールクラブ会員の募集などを通して若い方への献血参加を呼び掛けています。

今年度は1月1日(日)～2月28日(火)まで「はたちの献血」キャンペーンを、1月2日(月)～3月31日(金)まで今年度高校や大学などを卒業する学生を対象に「卒業献血キャンペーン」を実施しております。

若い皆さんの力が今、必要です!!ご家族・ご友人お誘いのうえ、献血へのご協力をお願いいたします。

